

モモ品種「はなよめ」の特性

農業研究センター 球磨農業研究所
担当者：岩谷 章生

研究のねらい

本県のモモ栽培は、西南暖地の特性を生かしたハウス栽培や露地の早生品種の栽培が盛んである。栽培面積の約30%は早生の「日川白鳳」で占められており、それ以前に収穫可能な早生品種は高単価が望めるが、従来の主要品種である「武井白鳳」は食味と果形が劣り、「ちよひめ」は小玉であるため、市場評価を低下させる原因となっている。

そこで、「日川白鳳」以前に収穫可能な優良な早生品種を選定し、モモ栽培の経営向上と労力分散を図る。

研究の成果

< 来歴 >

「はなよめ」は山梨県東八代郡八代町で発見された「日川白鳳」の変異樹であり、平成7年3月に品種登録された。

1. 「ちよひめ」とほぼ同時期に収穫ができる早生品種である。
2. 1果重は「ちよひめ」と比べて20g程度大玉となる。果皮の着色は容易で、果形は良く、外観は優れる。
3. 糖度は「ちよひめ」と同程度であり、酸味が少なく、渋みも感じられないため、食味は良好である。

普及上の留意点

1. 樹勢は早生品種としては中程度であり、栽培は比較的容易である。
2. 「ちよひめ」に比べて核割れしやすい性質があり、硬核期前後の急激な摘果は核割れを助長するため避ける。
3. 花粉を有し、着果は安定しているため、摘蕾を行い大玉生産を目指す。ただし、加温ハウス栽培での幼木時は着果が不安定となりやすいので摘蕾を避ける。

[具体的データ]

表1 加温ハウス栽培での「はなよめ」の生育、果実品質

品種	開花盛期 (月・日)	収穫期(月・日)			1果重 (g)	糖度 (Brix)	着色度	商品果率 (%)
		始	盛	終				
はなよめ	3. 3	5.14	5.19	5.23	186	11.2	3.6	83.7
ちよひめ	3. 2	5.15	5.20	5.24	164	11.7	4.0	85.0

注) 平成12～15年産までの平均値
5(良い)～1(悪い)までの5段階評価

表2 露地栽培での「はなよめ」の果実品質

品種	1果重 (g)	糖度 (Brix)	着色度	酸味 渋み	
				酸味	渋み
はなよめ	184	13.4	4.9	微	無
ちよひめ	166	13.6	4.8	軽	無

表3 食味及び外観評価

品種	外観	食味
はなよめ	8.8	6.3
ちよひめ	7.0	7.0

注) 10(良い)～1(悪い)の10段階評価
パネラー24名

注) 平成14、15年産の平均値



写真1 「はなよめ」の果実

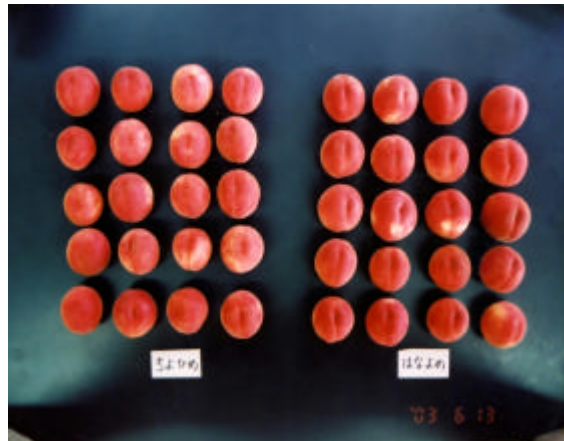


写真2 「はなよめ」と「ちよひめ」の比較



写真3 「はなよめ」の着果状況